

CASBEE 広島 2016年版

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

欄に数値またはコメントを記入

(仮称)エールヴィータ矢賀新町

配 慮 項 目			評価点	重み係数	内 訳			
■ 1. 「地球温暖化対策」の推進								
1.1 建物の熱負荷抑制								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.25	Q1 室内環境	2 温熱環境	2.1 室温制御	2 外皮性能		
省エネ等級4取得	4.0	0.75	LRI エネルギー	1 建物外皮の熱負荷抑制				
小計	3.8	0.14						
1.2 自然エネルギーの利用								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	1.00	LRI エネルギー	2 自然エネルギー利用				
小計	3.0	0.05						
1.3 設備システムの高効率化								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	4.8	1.00	LRI エネルギー	3 設備システムの高効率化				
エコジョーズ(熱回収式給湯器)の採用								
小計	4.8	0.26						
1.4 設備システムの効率的運用								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.00	LRI エネルギー	4 効率的運用	集合住宅以外の評価	4.1 モニタリング		
	3.0	0.00	LRI エネルギー	4 効率的運用	集合住宅以外の評価	4.2 運用管理体制		
	3.0	0.50	LRI エネルギー	4 効率的運用	集合住宅の評価	4.1 モニタリング		
	3.0	0.50	LRI エネルギー	4 効率的運用	集合住宅の評価	4.2 運用管理体制		
小計	3.0	0.10						
1.5 資源・マテリアル対策								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	4.0	0.10	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.1 節水			
節水型の水栓を採用する	3.0	0.11	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.2 雨水利用・雑排水等の利用	1 雨水利用システム導入の有無		
	3.0	0.05	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.2 雨水利用・雑排水等の利用	2 雑排水等利用システム導入の有無		
	3.0	0.08	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.1 材料使用量の削減			
	3.0	0.17	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.2 既存建築躯体等の継続使用			
	3.0	0.17	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
	3.0	0.17	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			
	0.0	0.00	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.5 持続可能な森林から産出された木材			
	4.0	0.17	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			
小計	3.3	0.31						
1.6 ライフサイクルCO2排出率								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	4.6	1.00	LR3 敷地外環境	1 地球温暖化への配慮				
リサイクル商品の採用等でCO2排出を抑制								
小計	4.6	0.13						
1.「地球温暖化対策」の推進の評価			3.9	0.68				
■ 2. 「ヒートアイランド対策」の推進								
2.1 温熱環境の向上								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	2.0	0.49	Q3 室外環境(敷地内)	1 生物環境の保全と創出				
	3.0	0.24	Q3 室外環境(敷地内)	3 地域性・アメニティへの配慮	3.2 敷地内温熱環境の向上			
	3.0	0.27	LR3 敷地外環境	2 地域環境への配慮	2.2 温熱環境悪化の改善			
小計	2.5	0.97						
2.2 交通負荷抑制								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	4.0	1.00	LR3 敷地外環境	2 地域環境への配慮	2.3 地域インフラへの負荷抑制	3 交通負荷抑制		
渋滞を招かない出入口を制限								
小計	4.0	0.03						
2.「ヒートアイランド対策」の推進の評価			2.6	0.17				
■ 3. 「長寿命化対策」の推進								
3.1 耐用性の向上								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	0.50	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.1 耐震・免震・制震・制振	1 耐震性(建物のこわれにくさ)		
	3.0	0.13	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.1 耐震・免震・制震・制振	2 免震・制震・制振性能		
	3.0	0.08	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	1 躯体材料の耐用年数		
	2.0	0.08	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		
	3.0	0.04	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		
	3.0	0.04	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	4 空調換気ダクトの更新必要間隔		
	3.0	0.08	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	5 空調・給排水配管の更新必要間隔		
	3.0	0.08	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	6 主要設備機器の更新必要間隔		
小計	2.9	0.44						
3.2 設備の更新性								
(コメント) ※設計の計画上限段に配慮した事項を記載してください。	3.0	0.20	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	1 空調配管の更新性		
	1.0	0.20	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	2 給排水管の更新性		
	3.0	0.10	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	3 電気配線の更新性		
	3.0	0.10	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	4 通信配線の更新性		
	3.0	0.20	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	5 設備機器の更新性		
	3.0	0.20	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	6 バックアップスペースの確保		
小計	2.6	0.56						
3.「長寿命化対策」の推進の評価			2.7	0.14				
■ 重点項目の総平均(上記3項目)			3.5					